

原画展における原画の扱い方と理想

2231073 武田仁美（本多悟ゼミ）

要約

近年、漫画やアニメ作品の人気拡大に伴い、作品の制作過程で生まれる「原画」を展示する原画展が全国各地で開催され、多くのファンを集めている。原画展はかつて、制作資料としての原画を紹介する展示が中心であったが、近年では物販やイベント、体験型展示などを組み合わせた総合的なエンターテインメントイベントとして発展している。一方で、原画は紙媒体で制作されることが多く、光や温湿度の影響による劣化など保存上の課題も抱えている。本研究は、こうした原画展の現状を整理し、原画を文化資産として適切に保護しながら、来場者にとって魅力的な展示を実現するための「理想の原画展」のあり方を検討することを目的とする。

まず第 1 章では、漫画文化の発展とともに変化してきた原画の扱い方を整理し、原画展がどのように発展してきたのかを歴史的観点から概観した。第 2 章では、現在の原画展の運営体制や展示方法、原画の保存・管理に関する課題を整理し、原画が文化資産として扱われるようになった背景を考察した。第 3 章では、原画展の運営企業や出版社関係者へのインタビューを通して、企画立案や展示方法、物販戦略など、原画展の運営の実態を明らかにした。また、来場経験者へのアンケート調査を実施し、来場者が原画展に求めている体験や展示内容を分析した。

これらの調査・分析を踏まえ、第 4 章では来場者のニーズと原画の保存という観点を両立させる「理想の原画展」のモデルを提案した。具体的には、原画そのものの展示だけでなく、制作過程を可視化する展示やデジタル技術を活用した体験型コンテンツの導入、さらに来場者の満足度を高める物販やイベントの設計などが重要であることを示した。また、原画を文化資産として長期的に保存していくためには、公的機関と民間企業の連携や、保存環境の整備などの課題にも取り組む必要があることを指摘した。

本研究は、原画展の歴史、運営、来場者体験という複数の視点から原画展を分析し、文化資産の保護とエンターテインメントとしての魅力を両立させる展示のあり方を提示した点に意義がある。漫画・アニメ文化が世界的に広がるなか、原画展は作品の価値を社会に伝える重要な文化活動として、今後さらに発展していくことが期待される。